今週の為替相場見通し（2017年6月26日）

総括表		先週の値動き				今週の予想レンジ		
		注	レンジ			終値		
米ドル	（円）		110.80	～	111.79	111.30	110.00 ～ 112.50	
ユーロ	（ドル）		1.1119	～	1.1215	1.1193	1.1150 ～ 1.1250	
（1ユーロ=）	（円）		123.67	～	124.70	124.60	124.00 ～ 125.50	
英ポンド	（ドル）		1.2589	～	1.2814	1.2720	1.2600 ～ 1.2800	
（1英ポンド=）	（円）	*	139.86	～	142.55	141.55	139.00 ～ 142.50	
豪ドル	（ドル）		0.7535	～	0.7629	0.7565	0.7500 ～ 0.7800	
（1豪ドル=）	（円）	*	83.73	～	85.09	84.22	83.00 ～ 87.00	

（データ）先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1．米ドル

為替営業第二チーム　島田 貴章

（1）今週の予想レンジ：　110.00 ～ 112.50 円

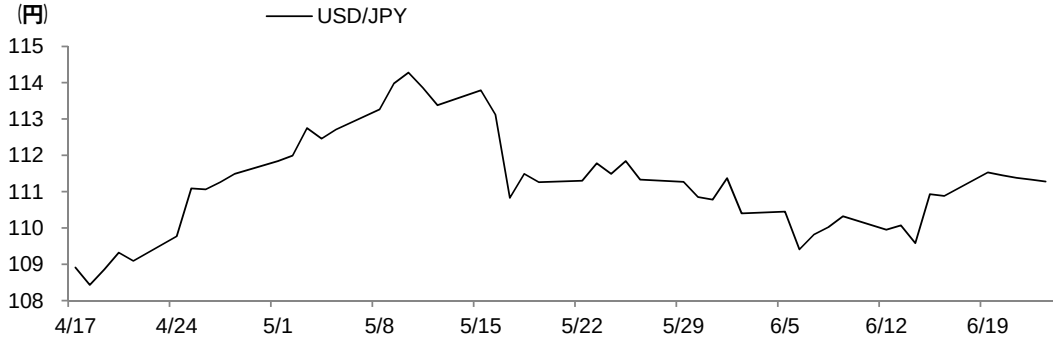
（2）ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のドル/円相場は決定的な材料を欠く中で要人発言等を材料にレンジ内を上下する展開。週初19日、ドル/円相場は110円台後半水準にてオープン。週安値110.80円をつけた後は111円台ちょうどを挟んでの揉み合い推移が続いたが、ダドリーNY連銀総裁講演での「景気拡大局面がやや長期化しているが、まだ長く継続すると確信している」との発言を受け、米金利急騰と共に111円台半ばまで上昇。翌20日、米金利上昇を受けてドル/円相場の上昇は継続し、週高値となる111.79円をつけた。その後、イングランド銀行（BOE、中央銀行）のカーニー総裁による「インフレ圧力は抑制されており利上げの時ではない」との発言を受け、対英ポンドや欧州通貨で円高が進む中、ドル/円相場は軟化。加えて、ムニューシン米財務長官による「強いドルには不利な面もある」との発言を受け111円台前半まで下落。週央21日、ハルデーンECB理事による「年後半の利上げを支持」との発言を受け、前日の巻き戻しからドル/円相場も111円台後半まで上昇。翌22日、ブラード・セントルイス（SL）連銀総裁による「政策金利を今後2年半で3%に引き上げる見通しは不用意に積極的」との発言により米金利ならびにドル/円相場の上値は押さえられ、111円台前半水準にて停滞。週末22日、前日に引き続きブラードSL連銀総裁のハト派的発言が報じられるも、メスター・クリーブランド連銀総裁からはタカ派的発言が伝えられ、結果としてドル/円相場はレンジ推移となり、結局111円台前半水準にて越週した。

今週のドル/円相場は引き続き方向感に欠く展開を予想する。今週は27日(火)のイエレンFRB議長講演や28日(水)のカシュカリ・ミネアポリス（MP）連銀総裁講演等、複数のFED関連要人講演が予定されるが、影響は限定的となろう。イエレン議長講演については直近FOMC後の会見から日が浅いことに鑑みれば新たな情報が出るとは考え難い。FED内最ハト派であるカシュカリMP総裁講演には注意を払う必要があろうが、こちらもFOMC後に公表された同氏論文以上の内容が出るとは予想し難い。各々のタカ派/ハト派的発言を受け相場はある程度の反応を見せるであろうが、内容が既存発言から変化するものでない限り、その影響は限定的となろう。米5月PCEコアデフレーターの発表を30日(金)に控えていることも週内の値動きを限定する材料として意識される。なお、その他の重要な経済指標としては、26日(月)に米5月耐久財受注、29日(木)に本邦5月小売売上高および米1～3月期GDP(3次速報値)、30日(金)に本邦5月全国消費者物価指数、本邦5月鉱工業生産(速報値)、米6月ミシガン大学消費者マインド指数等の発表が予定されている。

（3）先週までの相場の推移

先週（6/19～6/23）の値動き：　安値 110.80 円　高値 111.79 円　終値 111.30 円



（資料）ブルームバーグ

2．ユーロ

為替営業第二チーム　坂本 真史

⑴ 今週の予想レンジ：　1.1150 ～ 1.1250　124.00 ～ 125.50 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

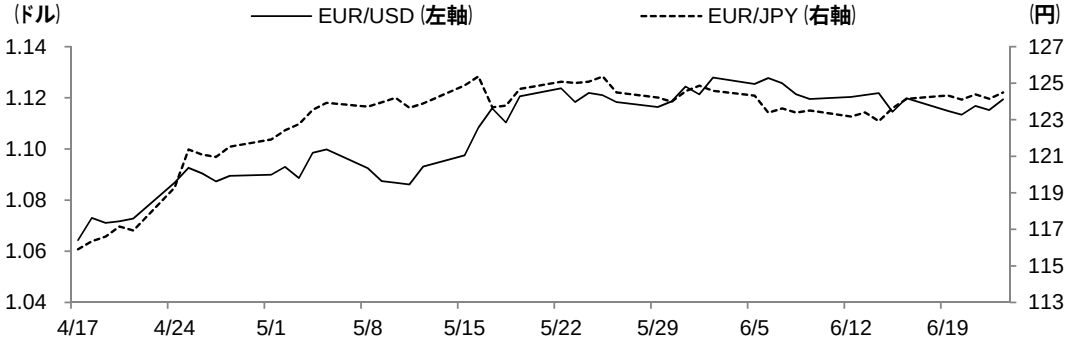
先週のユーロ相場はレンジ推移となった。対ドルでは、週初19日に1.12ちょうど近辺でオープン。週高値1.1215をつけるも、ダドリーNY連銀総裁の「米景気の拡大局面がまだ長く続く」との見解が報じられたことで米金利が上昇するとドル買い優勢となり、1.11台半ばまで下落。翌20日、ムニューシン米財務長官の「強いドルには不利な面もある」との見解が報じられると米金利が低下し、1.11台半ばまで反発する場面があったものの上値は限定的。寧ろ、原油価格が大きく下落し、欧州株も軟調となる中、週安値1.1119まで下落した。週央21日、ショートカバーの動きも次第に意識される中、1.11台半ばまで上昇。翌22日、パウエルFRB理事から「FOMCが示した金利見通しの利上げペースは不用意に積極的」との見解が出されるもユーロ相場に値幅は出なかった。週末23日、発表された独・欧州の各PMIは強弱混在であったものの、注目度の比較的高い製造業PMIは総じて予想を上回ったことで、ECBが9月にも資産購入規模の縮小を発表するとの見方も出る中、1.1209まで上昇。但し、週初つけた週高値を更新するには至らず、1.12ちょうど近辺で越週した。対円では、週初19日に124円台半ばでオープン。21日、ユーロドルが反発する前に週安値123.67円をつけ、週末23日に週高値124.70円をつけた後、124円台半ばで越週した。

今週のユーロ相場は先週に続いて方向感の見出しにくい展開となり、レンジ推移になると予想。今週は26日(月)に米5月耐久財受注の発表が予定されているほか、30日(金)に米5月PCEデフレータの発表が予定されている。こうした経済指標で米経済について良好な需給やインフレ状況が確認されれば、年内あと1回の利上げというドットチャートの金利見通しを織り込みに行く材料となる可能性はある。しかし、今月のFOMC会合後に新たに報告された米経済指標はまだ少なく、今後の利上げペースについて今週の段階で方向感が固まる地合いにはならないものと考える。また、今週は27日(火)のイエレンFRB議長講演をはじめとして、ウィリアムズ・サンフランシスコ（SF）連銀総裁、カシュカリMP連銀総裁、ブラードSL連銀総裁とFRB高官の発言が相次ぐ。経済環境をめぐるFRB高官の現状認識を確認することはできるものの、市場が注目する利上げのペースについて、確信を持たせるには至らないだろう。一方で、欧州に目を転じれば、ドラギECB総裁は先週末のEU首脳会議の場で、域内経済は拡大しているとしつつも賃金の伸びが弱く、基調のインフレ率はまだ上昇しておらず、金融緩和策は当面維持されるとの考えを示している。先週末発表された単月のPMIの結果が一部で良好であったとしても、それだけを持ってECBのテーパリング観測を高めるには総裁の上記認識との距離を感じる。従って、今週のユーロ相場は方向感の定まり難いレンジ相場を想定して臨みたい。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（6/19～6/23）の値動き：

（対ドル）	安値 1.1119	高値 1.1215	終値 1.1193
（対円）	安値 123.67	高値 124.70	終値 124.60



（資料）ブルームバーグ

3．英ポンド

欧州資金部　山田 杏奈

⑴ 今週の予想レンジ：　1.2600 ～ 1.2800　139.00 ～ 142.50 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

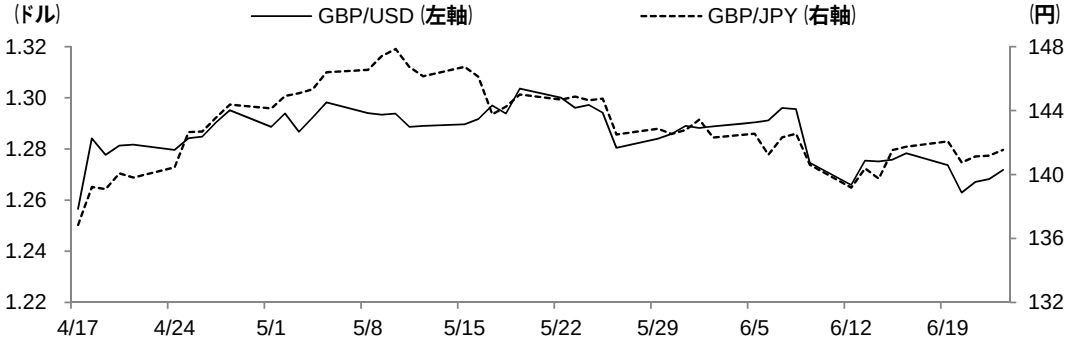
先週の英ポンド相場は、カーニー英中銀総裁の発言を受けて一時的に下落したものの、その後は週初の水準まで戻す展開。20日のマンションハウススピーチで、カーニー総裁は「インフレ圧力は引き続き弱く、金融政策については今は調整する時ではない」と早期利上げについて慎重な姿勢を示した。この発言を受けて、市場の利上げ期待が後退し、英ポンドは急落。20日の朝方1.275近辺だった対ドルでは、21日にかけて1.260を割る場面があり、対円、対ユーロでも英ポンドは大きく下落した。15日に開催された英6月MPCは、利上げを主張する委員が前回の1名から3名（フォーブス委員、マカファーティ委員、ソーンダース委員）に増加する結果となり、市場は若干ながらも早期利上げを期待していたが、今回のカーニー総裁の発言により、利上げ期待は剥落することとなった。しかしその後、ハト派と考えられていたホールデン英中銀理事が、年内の利上げを支持する姿勢をみせたことで、相場は反転。「インフレが予想以上の底堅さを示しており、経済指標が良好であれば、金融緩和の一部を解除するプロセスを開始する」とし、引き締めが早すぎるリスクよりも遅すぎるリスクを指摘した。これを受けて、対ドルでは一時1.2700台に上昇し、対円、対ユーロでも上昇。しかしポンドの反発は一時的で、カーニー総裁が発言する前の水準までの回復はなかった。19日にはEU離脱交渉が正式に開始されたが、相場の反応は限定的。EU離脱交渉においては、依然としてスムーズな離脱交渉は想定しづらく、単独過半数を失った保守党を率いるメイ首相には引き続き多くの困難が立ちはだかりそうだ。

今週の英ポンド相場は、小幅下落を予想。先週は英中銀の発言によって上下に振らされる展開ではあったものの、市場の反応は限定的。利上げを主張する委員は、想定以上のCPIの上昇を指摘しており、インフレの動向には今後も注意が必要である。一方で、経済指標や雇用指標においては横ばい傾向がみられるのに加えて、依然として政治的不透明感が続くEU離脱交渉を前に、英中銀が積極的に金融引き締めの方向に舵を切ることは想定しづらい。当面の間は、慎重な運営が求められるだろう。そのため、英中銀委員の発言や指標の結果によって上下する動きはあるものの、英ポンドは今後も変わらず、下落基調が続くと考えられる。今週は30日（金）に英1～3月期GDPの確報が発表される。前年比+2.0%が予想されているが、予想以上の数字が出れば、早期利上げ観測から英ポンドは上昇するだろう。なお、タカ派の筆頭格であったフォーブス英中銀委員が、6月末に任期を迎える。次回のMPCでフォーブス委員はいないものの、ホールデン委員が利上げを支持するグループに加わった場合、利上げを主張する委員は、前回利上げを支持したマカファーティ委員、ソーンダース委員と共に、少なくとも3名になる見通しである。フォーブス委員の後任は、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス教授のシルバナ・テンレイロ氏が指名された。今後も、英中銀委員の利上げに対する姿勢とその票読みが注目される展開が続きそうだ。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（6/19～6/23）の値動き：　（対ドル）安値 1.2589　高値 1.2814　終値 1.2720

（対円）安値 139.86　高値 142.55　終値 141.55



（資料）ブルームバーグ

4．豪ドル

為替営業第二チーム　岡本 明生

⑴ 今週の予想レンジ：　0.7500 ～ 0.7800　83.00 ～ 87.00 **円**

⑵ ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

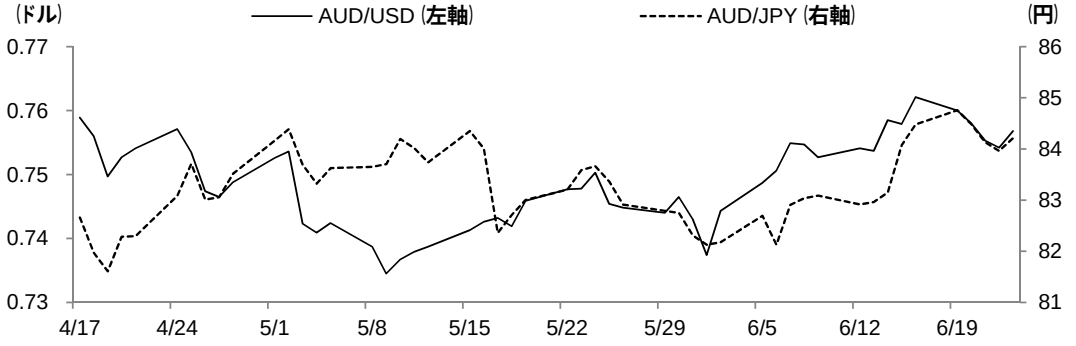
先週の豪ドル相場は、前週比小幅安の0.75台後半でもみ合う展開。週初19日は、0.76台前半でオープン。日中は横ばいで推移したが、海外時間に入り大手格付け会社が豪4大銀行の長期格付けを引き下げたことを受け、豪ドルは0.75台へ下落。ダドリーNY連銀総裁の米経済に対する強気なコメントもドル高のサポート材料となり、0.75台後半で推移した。20日は豪州準備銀行(RBA)が6月理事会の議事要旨を発表、「緩和的な金融政策スタンスの維持が、持続的な経済成長と将来的なインフレ目標達成に整合的と判断した」との内容も特段材料視されず。1～3月期豪住宅価格指数が予想を上回ったことから豪ドルは0.76台前半まで上昇も、その流れは続かず再び0.75台後半へ下落。豪ドル/円も週高値85.09円をつけるも滞空時間短く、再び84円台へ下落した。海外時間に入り、原油価格が9か月ぶりとなる安値水準へ下落したことが重石となり、豪ドルは小幅ながら一段安となった。21日は、主だった指標の発表もない中、豪ドルは0.75台後半の小幅なレンジでの推移。原油は一段安となったものの、その影響は限定的だった。22日も同様0.75台半ばを中心にもみ合いの展開となった。豪ドル/円は週安値の83.73円まで下落する場面も見られたが、下値を追う展開とはならず底堅く推移した。23日は、連日下げていた原油価格がじりじりと上昇に転じる中、つられて豪ドルにも買い戻しが入り、結局0.7565で越週した。

今週の豪ドル相場は0.76台を中心とするレンジ内での推移を予想する。前週豪ドルの下押し材料となった原油相場はすでに10か月ぶりの安値圏まで調整が進んでおり、下落余地は限定的と思われ、豪ドルを下支える材料となろう。FRBが利上げに加えバランスシート縮小も含めた金融政策正常化を進めているものの、米金利の上昇には繋がっておらず、むしろトランプラリーの上げ幅を全戻ししており、ドルには強さが感じられない。一方、豪州は住宅バブルの可能性など懸念される事象がいくつかあるが同国経済は堅調に推移しており、基本的にはここ数か月の動きである豪ドル高ドル安のトレンドは変わらないだろう。テクニカル面では、一目均衡表の雲の上0.754付近や200日移動平均線の0.756付近が下値のサポートラインと考えられる。今週は米国の主要経済指標の発表を幾つか控えるものの、豪州サイドでは翌週7月4日（火）にRBAの理事会を控えており、先週下げた豪ドルには自律反発の買い戻しが入りやすい一方で、0.76台では上値重く推移すると予想したい。経済指標では、豪州は29日（木）に5月HIA新築住宅販売件数が発表予定。また、最大の輸出先である中国では27日（火）に5月工業企業利益、30日（金）に6月製造業PMI、非製造業PMIが発表される。

⑶ 先週までの相場の推移

先週（6/19～6/23）の値動き：

（対ドル）	安値 0.7535	高値 0.7629	終値 0.7565
（対円）	安値 83.73	高値 85.09	終値 84.22



（資料）ブルームバーグ

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。